○プロローグ

「作詞って……私が？」
「うん、うちの軽音部でオリジナル曲作ってるんだけど、作曲はまぁいいんだけど歌詞が全然でさぁ……お願いゆっぴ！」
「ええ⁉　無理よ尚子！　作詞なんて無理無理！　やったことないもの！」

——来た。ついに来たわ。私の才能に気づく人が、ようやく現れたのね。

昼休みの図書室。ゆっぴこと私、江戸川悠のもとを訪ねてきたのは、軽音部でギタリストをやっている友達、佐々木尚子。そんな彼女が私に相談してきたのは、『作詞の依頼』だった。
「だってほら、ゆっぴって読書家だし頭良いし、そういうの得意でしょ？　……私ってほら、音楽ばっかりやってるから語彙力とか全然なんだぁ」

実に正しい判断だわ尚子。まぁこの子が何をもって私のことを頭が良いとか読書家とか言ってるのかについては、ちょっとした誤解があるんだけど。というか、固定観念？　たし